

令和5年7月31日

作成者：総務課行財政改革推進係

令和5年度 第1回 市川三郷町行財政改革推進委員会

－ 会議録 －

- 1 日 時 令和5年7月28日（金）午後3時00分から午後5時10分まで
- 2 場 所 市川三郷町役場 本庁舎1階 大会議室
- 3 出席者 **【会長】** 藤原真史  
**【委員】** 青木志保 石部萬史 一瀬宏行 遠藤玲詩 笠井鈴治  
加藤 武 近藤和也 丹澤葉子 吉田朱美（敬称略）  
**【町役場】** 町長 遠藤 浩  
副町長 依田誠二  
教育長 渡井 渡  
政策推進課長代理 渡辺元樹  
財政課長 森川規彦  
財政課財政係長 深澤正弘  
**【事務局】** 総務課長 一瀬 浩  
総務課行財政改革推進係 一瀬 勝 伊藤昌也
- 4 会議録署名 青木委員 石部委員
- 5 会議内容 **【委嘱状交付式】**
  - (1) 開会
  - (2) 委嘱状交付
  - (3) 町長あいさつ
  - (4) 委員自己紹介
  - (5) 閉会**【第1回推進委員会】**
  - (1) 開会
  - (2) 会長の選任
  - (3) 会長あいさつ
  - (4) 推進本部・事務局職員自己紹介
  - (5) 議事 議題1 行財政改革の目的及び検討手法について  
議題2 行財政改革の基本的な考え方について  
議題3 行財政改革アクションプランについて
  - (6) その他
  - (7) 閉会

## 6 会議経過

### 【委嘱状交付式】

(1) 開会 午後3時00分

(2) 委嘱状交付

(3) 町長あいさつ

町長あいさつの内容は、次のとおり。

この市川三郷町行財政改革推進委員会は、本町の抱える財政上の非常な事態ということで、この期に今回初めて設置をした。本委員会を通して、今後の行政運営に意見をいただきたい。

かつてこの市川三郷町は和紙や花火、ハンコのような伝統産業が盛んな地域だった。しかし平成7年には62%であった生産年齢人口が、30年後の令和7年の予測では、49%であり50%を切る形となった。人口減少、少子高齢化といった時代の流れの中で、これは地域経済が急激に弱体化した証である。そのため、ある種の転換点という意味合いもあると思っている。今までどおりでは、地域も悪くなるというように認識をしている。これが今回行財政改革に取り組む目的でもある。

また、昨今言われているDX（デジタルトランスフォーメーション）、あるいはGX（グリーントランスフォーメーション）。これはXのトランスフォーメーションの方が重要と言われている。トランスフォーメーションは形が変わるという意味で、意識改革、行動変容にも取り組んでいかなければならないと考えている。このXには時代の転換点としての意味合いもあると思う。

今までこういった行財政改革に携わる議論はされたことがないかも知れないが、会社や家庭等の日々の日常の中で様々な経験や知識があると思うので、この市川三郷町の行財政改革について助言をしていただきたい。また今回初めてということもあるので、資料が膨大になっているが、逐次説明をするので今日の時点では分からなくとも、色々な疑問点が出れば事務局の方で対応をさせていただく。今回行財政改革推進委員に就任していただいた皆さんには、是非、実のある実効性のある会にしていきたいと思う。そして役場の組織の中でも、係長職の検討部会、課長職による幹事会といった議論をする場があるので、様々な議論を様々な角度から行い、その総合体が最終結論になると理解している。

(4) 委員自己紹介

(5) 閉会 午後3時20分

## 【第1回推進委員会】

(1) 開会 午後3時20分

(2) 会長の選任

会長については、市川三郷町行財政改革推進委員会設置条例第4条の規程に基づき、委員の互選により藤原委員に決定した。

(3) 会長あいさつ

会長のあいさつの内容は、次のとおり。

市川三郷町では本格的に行財政改革に取り組むという事で、事務局より説明をいただいている。行財政改革というと量的な削減がまずメインとなる傾向がある。多くの自治体において最近では、量的な部分は引き続き削りつつ、行政の取り組みや仕事の進め方、町民との公共のあり方を含めて様々な質の改善を行財政改革の中で推進するようになった。本委員会でも委員の皆さんの発言内容にもよるが、量的な部分を削減しつつ質的改善の部分をしっかりを行い、町と一緒に良い市川三郷町を作っていきたいと考えている。

(4) 推進本部・事務局職員自己紹介

(5) 議事

議事に入る前に事務局より、市川三郷町の現状について参考資料1に基づき説明。その後議題1から3まで一括して資料1-1、1-2、2、3-1、3-2、3-3に基づき説明。委員からの質疑や意見等については、次のとおり。

－ 発言者 －

議長

GDWが本計画の背景にあり、行財政改革とリンクしていくということなので、町長からGDWや行財政改革の取り組みについて何かあれば伺いたい。

町長

市川三郷町は三珠町、市川大門町、六郷町が合併してできた町であり、合併することにより合併特例債という措置があった。この起債の償還金のうち、7割が国からの交付税として入ってきていた。しかしながら平成27年度において合併特例債による措置が終了してしまったため、地方交付税は合併前と比べて減額となった。それに加え、それぞれの町ではそれぞれの事業や施設、職員を有していたが、合併後もそのままの状態に残っているので財政の危機的な状態になってしまった。

－ 発言内容等 －

GDW は、町長になる時の選挙公約や職員への訓示、議会での所信表明をまとめ、令和5年度に職員にも周知した。これは行政だけでなく町全体として、一つの企業に見立てて盛り上げていくというイメージで描いたもの。GDWにより住民サービスを向上させ、町民の幸福度を向上させる。これが町内総充実であるGDWというもの。

これを成し遂げるためには、令和5年度には、6項目を重点としていく。担当課だけではなく、横ぐしを刺した形で面展開していきたい。これを進めるためには人財が必要であり、地域経済を盛り上げていく。生産年齢人口が50%を切る時代になり、量の時代から質の時代への転換点である。町民の所得の向上あるいは企業の利益を増やしていく、交流人口を増やすことにより外貨を獲得する。こういったことをしなければならぬ。そのため町内の事業者には声をかけ、ラウンドテーブルを実施している。

国内戦略含むトップセールスでは、オマーンという国の大使と親しくなり、交流ができています。オマーンは古い工芸の国であり、市川三郷町の和紙や花火、ハンコというような古い工芸の面において共通点がある。こういったところで販路開拓や新商品の開発等、経済交流を行っていきたい。観光誘客においても民泊を活用して新たな観光戦略に取り組んでいきたい。こういった経済が活発になることにより、税収増につなげていきたい。

今年度住民税や固定資産税が上向きになったということで、期待をしている。リンケージ人口は関係者を増やし、町外の県人会を通してふるさと納税を増やしたり、あるいは市川三郷町ファンが増えることにより、観光客が増える。経済と財政を一对としたことで、地域も盛り上がり財政も良くしていくということを狙っている。それにより事業を推進していく。

議長

今町長より大きく分けて2つの話があった。2005年に合併してから、本来であれば10年間で徐々にスリム化しなければならない所を怠り、やらざるを得なくなったので量的削減をしなければならないという話。一方でマイナスだけの話では町は暗くなる一方であるので、GDWを念頭に置いて行財政改革で量をどうするかということと質を上げるということもイメージしながら実施項目等で具体化していきたいというリクエストでもありと受け止めている。こうした所も踏まえつつ、資料1-1から3-3の肉付けをするためにはどのようなポイントが必要か、またはよくわからない点があれば説明を求めていただきたい。

委員 行財政改革推進計画体系の1、2、3というのは、同時に進めていくという意味合いなのか。それとも1から始まっていくのか。資料を見る限りまずは財政の止血をしなければならないと考える。

事務局 指摘のとおり、マイナスの部分を抑えるということは非常に重要なことであると考えているが、それだけに限らず前に向いて行けることも重要であると考えているので同時並行的に進めていきたい。資料3-2の実施項目の中で取り組めるものから順次手をつけていく。公債費の縮減等、中長期的でないに取り組めない項目も出てくるので、令和6年7年というように計画を立てて進めていきたい。

町長 これはすぐにやるべきという意見等があったら聞かせてもらいたい。経営感覚は非常に需要。

委員 用事があり役場に立ち寄った際に、何をしているのかという疑問を持つような職員を見かける。会社感覚で言うと多能工であるといい。自分の仕事しかやらない社員がいると非常に困る。暇な部署が忙しい部署を応援に行く柔軟さが当たり前になればいいと思う。

事務局 こういった指摘は大切であると思うので感謝したい。このような経営的な視点で見てもらうことは非常に重要である。

議長 実施項目にいくつかあるが、今のような多能工的観点は入っていないので、そういったところが行政の割り当ての中でできるのか検討していただきたい。引き続き意見質問等はいかがか。

委員 三珠に健康管理センターがあり、私の地域では保健推進委員を出さなければならない。この委員会では夜の会合があり、住民健康診断に来てもらうためにはどうしたらいいかという話し合いを行っている。上九のような高齢者が多い地域では出てこない人もいる。参加してみて私はこの集まりは無駄だと思い、職員に開催の理由を聞いたところそのセンターを建てる際に、何年間かはこの事業をやらなければならない決まりになっているという回答だった。そういう所から真っ先に切るべき。

事務局 おそらく施設を建てる際には補助金の関係からそういった条件もあつ

た可能性が考えられる。スタートはそういったことだったかもしれないが、それが今必要かどうか疑義の目を持って取り組むように最近では指導している。慣例として前年踏襲として継続してきてしまったことが非常に多くあった。検討していかなければならないことであると認識している。

議長 体系の中の事務事業の見直しの中で担当がそれぞれの事業でやらなければならない根拠、今やる必要があるのかということを見直していかなければならない。そうすれば住民の負担を軽減できるし職員の負担も軽減することにつながる。引き続き意見質問等はいかがか。

委員 市川三郷町の経常収支比率が 98.1%で、これが県内でワースト 1 位、全国的に見てもワースト 11 位という結果となっているが、一番良いところは何%なのか。

財政課長 基準的な所でまず説明をさせていただくが、「財政小辞典」というぎょうせいから出ている本があるが、そこの中の記述では町村は 70%以下、市では 75%以下が望ましいとされている。また、95%を超えると総務省よりヒアリングの対象となるため、95%がひとつのラインとなる。

委員 経常収支比率 95%を今回は目指していくという認識でよろしいか。

財政課長 資料 1-1 の 1 ページの目的にあるように、恒常的な赤字体質の改善、および経常収支比率を 95%以下に減少させることを目標としている。

議長 経常収支比率は参考資料に説明があり、これの余裕度があると新しい政策ができる。この比率が 70%、75%は教科書には書いてあるが、そこに近い自治体は限られてくる。それにしても 98.1%という数字はかなり危機的状況。経常収支比率を改善するためには義務的経費を減らさなければならぬ。事務局としては、どこの実施項目でそれを狙っているのか補足の説明をいただきたい。

財政課財政係長 実施項目とすると事務事業の見直しというところでしっかりと精査していきたい。義務的経費というと、どうしても人件費、公債費、扶助費というなかなか切りにくい項目がある。まず公債費はなかなか切れないということを見ると、公共施設のあり方を検討し、そこに紐づいてい

る人件費にフォーカスしていきたい。扶助費についても濃淡をつけて事務事業の見直しの中で検討していきたい。そして、一般行政経費にシーリングをかけて原課を中心に見直しをしていきたいと考えている。

副町長 事務事業の見直しや公共施設のあり方の検討というのを具体的に実施項目で見ていくと、今言った事務事業の見直しというのは持続可能な財政運営の中の歳入・歳出の改革、実施項目の事務事業の見直しである。公共施設のあり方検討においては、効果的・効率的な行政運営の中の公共施設等のマネジメント推進、実施項目の施設保有量の最適化・あり方検討となる。この検討を行いつつ、実施項目の職員の適正配置で職員数の適正を見ていく。またその下の会計年度任用職員の適正な人員管理も合わせて検討する。

議長 引き続き意見質問等はいかがか。

委員 資料3-2について、基本方針が3つの柱となっているが、行財政改革を町民へ理解をしてもらう項目も必要ではないか。公共施設を減らすためには、その施設を使っている町民の方がいる訳で、反対されると思う。反対されるにはそれなりの理由があると思うが、町がこれほどまでに立て直しをしなければならぬ状態ということを理解していないと考える。町として周知させる必要があるので、このような柱があると良い。2点目となるが、市川三郷町は高齢化が進んでいる町である。仕事上、私は成年後見の仕事をしている。他市町の例ではあるが、認知症による納税トラブルというものが確実に増えてきている。過去には訪問徴収等を行ってその人の状態の確認も行っていった。故意に支払っていないければ、福祉課と協力し対応していたと思う。しかしながら、今現在は職員数も減らさなければならない、仕事もスリム化しなければならないという状態なので、行政にお願いすることはかなり厳しいと思うが、行政サービスの質の向上ということであれば、高齢化に対応した項目を入れるべきと考える。

議長 今、町民との情報共有、高齢化への対応という提案だったが、事務局から何か発言はあるか。

事務局 今すぐには難しいが、十分に検討をさせていただく。

議長	情報共有的な部分について、資料 3-2 にはホームページ等による情報発信の充実があるが、町民向けなのかそれとも対外的な観光客をイメージされているのか説明を求める。
事務局	町民向けおよび対外向け両方を意識しており、幅広い視点での PR と考えている。
議長	町民の委員に聞きたいが、普段行政や財政の情報発信にどの程度接しているか。また町ではどのような形で発信しているという認識か教えていただきたい。
委員	回覧板で回ってくる時に、予算等を見る程度。
委員	LINE で見ている。この行財政改革も LINE で知った。
議長	LINE による情報発信は新着情報を流しているのか、それとも個別に具体的な内容についても発信しているのか。
事務局	SNS については、Facebook や LINE 等様々なツールを使っている。新着情報だけでなく個別に具体的な内容についても発信するようにしている。
議長	情報発信の仕方としてはホームページ等による電子媒体や従来型の広報誌がある。あとは今回の実施項目では入っていないが、他の市町村ではタウンミーティングを行っている事例もある。なかなか集まらないという問題もあるが、行革等のテーマを決めて発信していく場を設けて町民側に出ていく形も必要であると考え。現在でも個別事業等で説明会や集会等を行っていると思うが、もっと色々な形で行ってもいいのではないかと考える。行財政改革についても根気よく情報を発信し続ける必要がある。
副町長	資料 1-1 の 3 ページでは、行財政改革の取り組み状況の周知や意見の聴取については推進体制図のとおり公表していきたいと考えている。
議長	引き続き意見質問等はいかがか。



委員

私は昨年一年間六郷支所で勤務をしていた。この部署では様々な方から様々な要望が上がって来る。六郷支所の庶務係の方は様々なことに対応して一生懸命頑張ってくれている。そういった中で、行財政改革にどのように町民を参加させるのかが必要になると考える。ここで一生懸命頑張っても中々伝わらない。そのため、町民も一緒になって行財政改革に参加してもらおうという視点も大事と考える。町民へ財政状況をしっかりと伝え、協力できる所は協力してもらおう必要がある。

例えば、六郷地区では草刈りを町にお願いしても、中々来てくれないこともある。町民は権利を主張するが中々自分たちでやろうとしない。私が時間があつたので草刈りをしていたら、他の町民の方も手伝ってくれた。そういう時に感じたのが、一生懸命やれば答えてくれる人もいるということ。今後そういう人達にどう協力してもらおうのかを考えなければならぬ。お金を支払うと財政がひっ迫してしまう。六郷のコーディネーターをしているが、そこでボランティアをお願いすることもある。ボランティアには感謝の意を込めて、町が発行した六郷のつむぎの湯の補助券を渡している。そうすればつむぎの湯の利用客も増え、ボランティアの人もうれしい気持ちになる。町としてもありがたい話なのでwin-winの関係になる。町がやるのが当たり前という考えに対して、町は予算がないのでできない、これでは上手くいかない。

今一番大事なことは、その間に組織を作ることが必要。町民と役場がお互いに気持ちの良い行政改革を進めたい。

議長

町の財産を活かしながらwin-winの関係に導く、および信頼関係の構築に向けた仕組みづくりをしてみてもどうかという提言だった。実施項目を具体化する際に町民との連携・協働を進めるためにそういった制度等を作ることができるか検討していただきたい。引き続き意見質問等はいかがか。

委員

先ほどの話は地域通貨等にもつながる良い話であったと思う。

私は選挙について話をしたい。遠藤町長は久保町政を引き継ぐ形で当選された。厳しい財政状況をいつ把握したか分からないが、立候補前に知っていてほしかった。久保町政の路線で大丈夫と町民は思っていたので、今更覆すのは町民の理解を得ることが難しい。大変だと思うが、それをやらなければならない。町議の選挙についても、票が欲しい訳なので町民から要望を受けたらそれに従ってしまう。町長、町議が選挙対策で甘いことを言うのはご法度というような意識改革をしていただきたい

い。

議長 議会等の関係も色々あると思うが、政治の決断決定というのは大事。それを後押しできるように今後取り組んでいければと思う。町長から何か意見等はあるか。

町長 立候補を決意した理由としては、数年前に街宣車が町内を回っていた時期があり、この町を変えるには根拠のない自信ではあったが自分しかないと思った。町議会についても町の財政状況についても表面上ではあるが、理解はしていた。やろうとしたことに対して議会が反発するというのも、今が転換点の時期であると思うので、あつて当たり前と考えている。また、町民に媚びて賛成票をもらうということはしていない。職員もかなり苦勞している中で、行財政改革をしていく。町民の皆さんは既得権益がなくなると、理解されないことが必ず出てくると思うが、次の選挙は関係なく信じたことを推進していく。もちろん皆さんの議論を裏付けにするつもりはなく、責任は私にあるので、私の責任で提案させていただく。今のような意見は貴重な意見として承る。

議長 引き続き意見質問等はいかがか。

委員 私の住む町と比較して市川三郷町は住民サービスが行き届いていると感じている。その半面、財政は負担を背負ってきたというように私なりに考えている。私の近所では子どもが小学校に上がる時には引っ越すと言われている。ここからでは学校に行かせることができないので、市川三郷町や富士川町へ引っ越すようになっており、親も困っている。そういった面から見ると市川三郷町は非常に住みやすい。住民サービスと財政状況、どちらを取るかこれから議論が必要。5年度10年後に市川三郷町に住んで良かったと思われる町にしたい。これには町民の協力が必要。町民が現状を知ること、施設等があるのが当たり前という考え方を少し遠慮してもらい、町民と行政がwin-winの関係で進めていきたい。そのためにも広報等で実態についてもっとPRしていく必要がある。

議長 充実した行政サービスとの兼ね合いの部分があるとの話だったが、行財政改革を考えると近隣市町村と比較し職員数が多いということはある。一方でここは予算が掛かっても、それは町の独自性ということでも

ある。メリハリが大事である。客観的な分析と、この町の将来像とのバランスをこれから庁内で検討していく際には意識して作業を進めていただきたい。引き続き意見質問等はいかがか。

委員

当社だけの話ですと、3年後の計画を立てることはない。まず3カ月、6カ月、1年後。1年後に実行できていなければ失敗を前提に、もう一度6カ月の段階で計画を立て直していかないと企業が進まない。3年間という行財政改革の推進期間となっているが、3年で時代は変わるので対応ができないのではないか。

行政側は人件費率が圧迫しているということを承知している上で、必要性が低い公共施設を見直した上で、改革していく。人件費率を下げていくということも目指していかなければならないと思うが、必要性和生産性のバランスを大事にすべき。必要性和生産性のバランスが崩れた時には、非効率的になる。非効率的になってしまった場合は、代表がその非効率的な部分に対応しなければならない。私の場合は覚悟の上で対応している。

また、企業誘致は絶対不可欠であると感じている。市川三郷町の山と川に挟まれており農地や住宅地、工業地は多くない。その中で人口を増やすということは簡単な事ではない。まず、隣町の人が買い物のために市川三郷町に来るのも大きなエネルギーが必要。長期的な人口増というところに焦点を当てることは必要であるが企業誘致を急がないとならない。人間の流動がないのは悲しい。少しずつではあるが若い人達が動き始めて来ている。上の世代の人達が若い世代の人達に頼りきってはいけないと思う。上の世代の人達が自立していかなければならない。各世代が自立するということを大前提に、お互いにサポートし合うというシステムを作らなければ well-being が成り立たない。well-being をはき違えて皆さんが理解してはならない。誰かが誰かに与えられるのではなく与える方が幸せという感覚を町民が持つことが大事。この町をダメにしてきたのは自分達という覚悟を持たなければならない。

市川三郷町に来てくれた人に市川三郷町の良いところを聞くと、大概の人が人の名前を出す。人が変わらなければ人は寄らない。人を変えるためには、外の風を吹かせるしかない。中の人の中の人同士で話をしてても良くなる。20代の若い人の意見を聞くのも大事。

議長

今大きく分けて計画期間の話、人件費および施設の必要性和生産性のバランスの話があった。また、企業誘致の話があり、人の流れ、人々の

意識の持ち方の話があった。そして well-being の捉え方、GDW にもある公共支援型とも話の関係するかも知れないが、自助、共助、公助という町民への動機付けの論点から意見をいただいた。事務局から計画期間等について答えていただきたいがいかがか。

事務局

幅広い意見に感謝申し上げます。計画期間について、できることについてはすぐにやりたいと考えている。公共施設のあり方を検討する際には、既得権益を主張するということは私たちも十分に理解している。そこは丁寧に話をしてお互いに歩み寄れる部分に到達するにはそれなりの時間が掛かると思っている。そういったことも含める中で3年という計画期間。3年では話がつかなかった場合には、次の段階として続けて考えていきたい。

また、交流という話があったが、私達としても交流は重要であると認識しており、以前より県や他の団体へ職員を派遣しており交流を行っている。この市川三郷町という組織だけではできない経験を他の組織に派遣し、勉強させていただいている。そういった職員を育てようと現在取り組んでいる。そして早急に変える為にも、県から職員として来ていただいている。企業誘致という話も GDW の中にあるが、六郷 IC 周辺の開発に民間と協力しながら取り組んでいる。

町長

well-being のことで自発性が必要というような話をされていたが、まさにその通りと考えている。GDW を推進するためにはそれぞれの立ち位置の方がどこにいるか理解していただく必要がある。これを達成するには、自発的貢献意欲（エンゲージメント）が必要ということの次の段階では示す予定である。行政がやるべきということではなく、行政は住民の合議体というように理解をしていただきたい。これが今回の GDW のねらいでもある。

企業誘致も地域の活性に非常に重要であると考えている。しかし町内では企業誘致する土地が少ない。町外からの企業誘致よりも現在ある企業と連携を取りながら業績向上をしていただきたいという思いでラウンドテーブルを行っている。この連携が地域活性につながると思っている。

議長

引き続き意見質問等はいかがか。

委員

企業誘致も重要であると考えているが、歳入歳出の改革を行う中で人口を

増やすという目標を入れなければならないと考える。そうしないと削減ばかりで歳入の目指すところが無いのはバランスが悪いのではないか。人口が増えないという意見もあったがやり方次第ではそうは思わない。例えば教育の面において、学校でしっかりと教育し、そのあと学童で宿題までしっかりやり塾に行かなくとも+αの教育が受けられたりするような地道な教育をしていき、30年後40年後に東大に何人も合格するようになっていたら両親共働きの子育て世帯が市川三郷町へ移住してくると思う。

議長 今意見の出た人口増加や企業誘致を含めて行財政改革の中で取り組めることもあると思う。例えば町有財産の活用方法等が考えられる。また、総合計画等とリンクさせながら、計画間のつながりもより円滑にして総合力を発揮できるような仕組みづくりの検討も行財政改革で行っていけばいいと考える。

(6) その他

- ・本委員会で述べられなかった意見等についてはメール等により送っていただきたい。
- ・第2回の行財政改革推進委員会は9月下旬予定している。

(7) 閉会 午後5時10分

会議の経過を記載して、その内容が相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

会議録署名人 \_\_\_\_\_ 印

会議録署名人 \_\_\_\_\_ 印